

# うっしっしいー情報2014

10月市



豊岡農業改良普及センター

10月8日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が76万7千円、雌が65万でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	11	1.014	745,396	10	0.853	631,800	21	691,303
篠山	6	0.921	704,700	4	0.825	592,380	10	659,772
丹波	20	0.937	734,616	20	0.850	637,686	40	686,151
朝来	5	0.966	787,752	4	0.824	721,170	9	758,160
播磨	16	0.921	744,998	10	0.794	584,496	26	683,266
美方郡	82	1.004	782,210	71	0.870	659,895	153	725,449
豊岡	19	1.008	765,834	14	0.913	665,743	33	723,371
養父	28	0.978	783,501	15	0.896	673,704	43	745,200
摂津・神戸	2	0.989	802,980	2	0.767	603,720	4	703,350
県北C	4	0.903	717,120	1	0.694	543,240	5	682,344
市場全体	194	0.981	766,850	151	0.863	650,332	345	715,852

# 10月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸宮土井	27	0.936	795,120	10	0.879	672,408	37	761,955
2	芳悠土井	27	1.031	781,920	23	0.859	691,106	50	740,146
3	芳山土井	27	1.031	791,240	29	0.872	661,742	56	724,179
	総計	178	0.984	763,869	135	0.863	647,136	313	713,521
4	菊毬土井	9	1.022	774,480	8	0.885	638,010	17	710,259
5	福芳土井	29	1.022	732,240	17	0.895	642,600	46	699,112
6	千代藤土井	7	0.914	737,794	8	0.834	637,875	15	684,504
7	丸富土井	34	0.931	747,678	28	0.835	600,480	62	681,201

価格は税込み（10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載。ただし間接検定牛は除く）  
 ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸宮土井	B	B	A+	A++	A+	A++
2	芳悠土井	A+	A	A+	A	A	A+++
3	芳山土井	A++ → A+	A+++	A+++ → A++	C	A++	A++
4	菊毬土井	A+ → A	A+ → A	A+	B	A+ → A	B
5	福芳土井	A++	B	A++	C	C	A
6	千代藤土井	B → A	A++	D	A	A+	A+++
7	丸富土井	A → B	A++	C → D	C	A	A++

北部農業技術センター提供（育種価評価は平成26年07月現在）

# 農家の皆さんがやるべき改良の基本～県立北部農業技術センター 研修資料より～

皆さんも感じられているとおり、最近の子牛取引価格は一年前と比較しても大幅に高くなっています。

しかしながら、この状況が永年に渡って続くことがないこともよくご存じだと思います。

そこで、今後とも安定した子牛生産を継続していただくために、今一度「我が家の牛」について振り返っていただきたいと思います。

今回は、県立北部技術センターの野田所長がある研修会の資料として用いられたものを引用しながら改良の基本についてお話します。

## ①我が家の家系を大事にする

皆さんが牛を飼育される時、どのようなことを一番大事に考えられるのでしょうか？

「発育が良いもの」、「将来肉質が良いと思われるもの」、「繁殖能力の高いもの」等々…

いろいろな要素があるとは思いますが、一番大事なことは「我が家で飼育しやすい」ことではないでしょうか。遺伝的な多様性を考えるのはもちろんですが、皆さんがずっと取り組まれている「我が家の飼い方」になじむ牛達を大切にしていきたいものです。

## ②繁殖雌牛の能力を知る

「我が家で飼育しやすい牛を大切に」と言いましたが、それだけでは時代の流れに置いていかれてしまいます。産子の遺伝的能力を知り次世代産子につなげるために、繁殖雌牛の育種価を見直してみましよう。

また、MSAS を活用することで、市場性の高い子牛生産ができるとともに、近交係数が低く増体性の向上が見込める後継雌牛を確保できるようになり、我が家の雌牛の改良が一層進むことになるでしょう。

## ③交配する前に…「売る牛」か「残す牛」か

○売る牛：肥育素牛として市場等で販売される牛

交配に用いる種雄牛には、「産肉能力が高い種雄牛」や「市場価値が高い種雄牛」を活用し、我が家の経営の安定化をはかりましよう。ただしこのような種雄牛を活用するときに気を付けていただきたいことは、発育や産肉成績が良くても「種牛能力が低い牛がいる」場合や、「次世代のエース」と血統がかぶる場合があります。

○残す牛：後継繁殖牛として我が家の次世代を担う牛

交配に用いる種雄牛には、「良い部分」を伸ばし「足りない部分」を補うものを活用しましよう。たとえば「乳がよく出そうな牛」、「資質や発育が良さそうな牛」等々…種牛能力が高く、次世代のエースと血統がかぶらない牛を残すことが大切です。

